

目地バリシート施工マニュアル

施工前



① 施工前の状態
路面の状態、目地部分の隙間、発生雑草の種類によって、適切な前処理を選択する。
(前処理の選択は裏面参照)

前処理



② 除草
目地から雑草が発生している場合は、施工前の処理として、除草を行う。



③ 抜根除草・目地堆積物の処理
根かきなどを用いて、雑草の根や、目地部に堆積した土埃を除去する。
※根かき作業の効率化に最適な機器があります。詳しくは営業までお問合せください。



④ 路面清掃
刈り取った雑草や土埃をホウキ等で除去する。
ワイヤーブラシを用いて路面にこびりついた土埃を清掃し、ブロワーなどを用いて除去を行う。



⑤ セメント充填
目地の隙間に目地バリ充填セメントを充填する。(使用目安 0.2L/m) 目地を境に段差のある場合も、シート貼付後に隙間ができないよう、セメントを充填する。目地バリ充填セメントは1袋に対し、水600mLを目安によく混練して使用する。



⑥ 路面の処理
路面に凹凸や窪みがある場合は、目地バリ充填セメント等を用いて、施工面が平らになるように処理を行う。
広範囲に使用した際は硬化するまで十分な養生が必要。

プライマー塗布



⑦ プライマー塗布
ラインチョークなどで位置だしを行い、施工面の砂埃を払い、刷毛を用いてプライマーを均一に塗布する。
(使用目安 50mL/m) 残ったプライマーは密封し、容器の記載に従い保管する。

プライマーPR1-5L/15Lの養生(重要)

(塗布後の養生目安)
夏期: 20分以上 冬期: 40分以上

施工時の気温や、路面状態(窪みにプライマーが溜まる)によって、養生時間は異なる。目地バリシートを貼り付ける前に、指で触り、乾燥を確認する。養生が足りないと、プライマーに含まれる溶剤により、目地バリシートに悪影響が出る(裏面参照)恐れがあるので、注意。

プライマーPR1-5L/15Lは水分を含むことにより性状が変わるため、目地バリシート貼付までに降雨があった場合には、路面乾燥後にプライマーの再塗布が必要となる。

目地バリシート貼付



⑧ 貼付準備
プライマーが乾いたのを確認後、目地バリシートを剥げ、離形紙を順次剥がしていく。剥がす際は離形紙が破れないよう注意。



⑨ 加熱
目地バリシートの裏面(離形紙の付いていた面)を、トーチランプ等を用いて加熱する。プライマーに引火する恐れがあるので、注意。
(加熱の目安は、裏面参照)



⑩ 貼付
加熱後、シートが冷えないうちに速やかに貼り付ける。
加熱しすぎると、表面に指の跡がつくので注意が必要。
シートとシートの重ねは、5cm以上。



⑪ 転圧
貼付後、ゴムハンマー等を用い、転圧を行う。特に、シートの両端に浮き上がりが無いよう、注意する。
シートが冷め、靴跡が着かない状態になれば踏圧も可能。

点検



⑫ 点検
シートの浮き上がりが無いかを確認し、浮いた部分があれば鎌などを用いて持ち上げ、家庭用バーナーなどを用いてシート裏面を加熱し、再圧着を行う。

完了



⑬ 施工完了

補足1(重ね部分の加熱処理)



⑭ 重ね部分の加熱処理
目地バリシートの表層には、サンドが付着しているため、重ねて貼り付ける前に、表層を加熱し、付着しやすい状態にすることが必要となる。また、貼付後は、しっかりと圧着する。

補足2(カーブの処理)



⑮ カーブの処理
急カーブのある現場では、そのまま貼り付けると皺や浮き上がりが発生する恐れがあるため、カーブにあわせて短くカットし、重ねて貼り付ける。

目地バリシート施工上の注意点

前処理の選択

現場条件に応じて、必要な処理を選択する。
()内の番号はマニュアルの番号に対応。

- 目地部分から雑草が発生している。
⇒除草(②)、抜根除草(③)が必要
⇒発生している雑草が、チガヤ、ヨモギ、スギナ、ヨシなどの地下茎を持つ多年生の雑草である。(※)
⇒目地バリ充填セメント適用(⑤)
(顆粒タイプの除草剤と併用すると、防草効果向上)
- 目地部分に土が堆積している。
⇒目地堆積物の処理(③)が必要
- 目地の隙間が10mm以上開いている、または、目地を境に段差がある。
⇒目地バリ充填セメント適用(⑤)
- 路面に凹凸や窪みがある。
⇒路面のセメント処理(⑥)

※イタドリ、オオイタドリが生育している場合は、事前の除草剤処理が必要

加熱の目安

目地バリシートは気温に応じて加熱時間が異なるため、どの程度まで加熱するのかを知ることが重要。加熱状態は、シート裏面の離形紙の跡や表面の状態にて判断する。



加熱前の状態。
剥がした離形紙の跡が残っている。この跡が見えなくなるまで加熱する。

①加熱不足の状態。
離形紙の跡がまだ残って見えている。

②適度に加熱した状態。
離形紙の跡が見えなくなり、表面が艶状となっている。

③加熱すぎの状態。
シート部分から炎があがっている。内部の防草シートの溶融の恐れあり。

一度消えた離形紙の跡はシートが冷めても再び現れることはないため、シート貼付の際には、②の状態まで加熱したら速やかに貼り付けることが重要。

※特に冬季の施工の際は、プライマー塗布前に、あらかじめ路面をバーナーで暖めておくことで、プライマーの養生時間の短縮や、目地バリシートがより付着しやすい状態になる。

プライマーPR1-5L/15Lの養生

プライマーの養生が不十分だと、揮発しきっていない溶剤により、目地バリシートの改質アスファルト部分に悪影響が出る恐れがある。



プライマーによる悪影響の例

プライマーの溶剤の影響で、改質アスファルト部分が変質・軟化し、改質アスファルト部分を雑草が貫通。剥がす際に、改質アスファルトが長く伸び、防草シート層と改質アスファルト層の剥離が見られる。



施工面の窪み

プライマーを大量に塗布すると、この部分にプライマーが溜まり、養生不良になりやすい。窪みのある場合は事前にセメント等を充填するなどの処理が必要。



乾燥確認

目地バリシート貼付前に、溶剤が完全に揮発したか、確認を行う。目安の養生時間を過ぎても、塗布量や気温によっては乾燥しきっていない場合もあるので注意。

プライマーの塗布について

プライマーはそれ自体が接着力を持つのではなく、施工面を目地バリシートが付着しやすくするための資材である。そのため、厚く塗りすぎても効果はなく、全体に均一に塗布することが重要である。塗布後は溶剤の揮発のため、目安として、夏期は20分～、気温の低い冬期は40分～の養生が必要となる。

補修方法

施工後、目地バリシートの浮き上がりや剥離、雑草の発生があった場合は以下の方法にて補修を行う。

目地バリシートの貼りなおし



1. シートを切り取り、路面からはがし、目地部分など雑草を除去する。



2. 路面を金ブラシ等を使用して研磨する。(こびりついた土などの除去)



3. 路面の清掃 (接着不良の要因となる砂埃の除去)



4. プライマーPR1-5L/15Lの塗布塗布後、十分に時間を置き、完全に乾燥させる。



5. 必要な長さにカットした目地バリシートの裏面を、バーナーで加熱する。



6. 加熱後、路面に貼り付け、特に端部を十分に転圧する。

※端部の浮き上がり等、軽微な補修で済む場合は、マニュアル⑫の方法を参照